

D. ボンヘッファー—その生涯と信仰—

第1回 殉教者ボンヘッファー

現代人ボンヘッファー／処刑されたボンヘッファー—彼は何をしたのか／「善」か「悪」かという選択が許されなかった時代／ボンヘッファーの最大の問題—「キリストが、いかにして、今日、ここで、我々の間で形をとりたもうか」
(トラックNo.01～03)

第2回 家庭と生いたち

優れた父と母／8人兄弟それぞれの生／最上の環境と、それに対する負い目／ベルリンでの才能の開花／ボンヘッファー家とキリスト教
(トラックNo.04～06)

第3回 神学者としてのデビュー

神学を志した動機／テューリゲン大学神学部で／ローマ留学と「教会」の発見／K・バルトの発見とその意味—神学する喜ばしさとある解放の経験—／「信仰」、それは「神の真実」／師ハルナックとの思想的訣別
(トラックNo.07～09)

第4回 嵐の中へ

学位論文『聖徒の交り』の特徴／バルセロナで／初めてのニューヨーク行き／ヒットラーの台頭と、その欺瞞性を早くから見抜いていたボンヘッファー／「神学者」から「キリスト者」へ／告白教会への参加と挫折／ロンドンへの逃避
(トラックNo.10～12)

第5回 共に生きる生活

ガンジーへの熱い共感／M・L・キング牧師との共通点／著作『キリストに従う』—安価な恵みと高価な恵み／フィンケンヴァルデの牧師研修所所長として／『共に生きる生活』の執筆
(トラックNo.13～15)

第6回 抵抗運動への決断

第二次世界大戦の始まり／二度目のニューヨーク／ドイツへの帰国—『この時代の試練を同胞と共に分かち合う』／反ヒットラー運動の拠点、国防軍情報部の囑託として／ボンヘッファーの逮捕／『十年後』の内容
(トラックNo.16～18)

村上 伸 (日本基督教団元教師)

(1987年4月～1988年3月放送)

第7回 この人を見よ

「キリスト教倫理」とは／「倫理」が問われるこの20世紀／天（「神」）だけでもなく、地（「人間・この世」）だけでもなく／イエス・キリストへの集中—イエスの受肉・十字架・復活
(トラックNo.19～21)

第8回 罪を知ること・罪を告白すること・罪を引き受けること

キリストと同じ形をとること／聖書に見る罪の悔い改め／罪の告白—解放的な体験／教会の罪責告白／全ての人々の代理としての教会／罪を引き受けるとは—キリストの生き方から学んだ最大の事
(トラックNo.22～24)

第9回 究極的なものと究極以前のもの

神のみこころに生きるとは／究極的なもの—罪人の義認／究極的なものと究極以前のものの関係について／まことの神・まことの人、イエス・キリスト
(トラックNo.25～27)

第10回 獄中におけるボンヘッファー

政治犯用の独房へ／獄中生活の様子／詩「私は一体、何者か」／詩「テーゲルの夜の声」／詩「よき力に信実静かにとり囲まれ、不思議にも守られ慰められて」
(トラックNo.28～30)

第11回 獄中で深められた思想

今日のわれわれにとって、キリスト教とは何であるか、キリスト者とは誰であるか／「宗教」と「聖書の信仰」の違い／「成人した世界」／他者のための生、他者のための教会
(トラックNo.31～33)

第12回 ボンヘッファーの最期の日々

死への旅／復活祭後第一主日の礼拝司式／『これが最後です。私にとっては命のはじまりです』／ボンヘッファーの残したもの／「キリエ・エレイソン」—主よ、憐みたまえ
(トラックNo.33～36)